

**調査者：向吉秀樹<sup>1</sup>，内田嗣人<sup>1</sup>  
大久雅貴<sup>2</sup>，佐野達也<sup>2</sup>**

**1: 島根大学大学院総合理工学研究科**

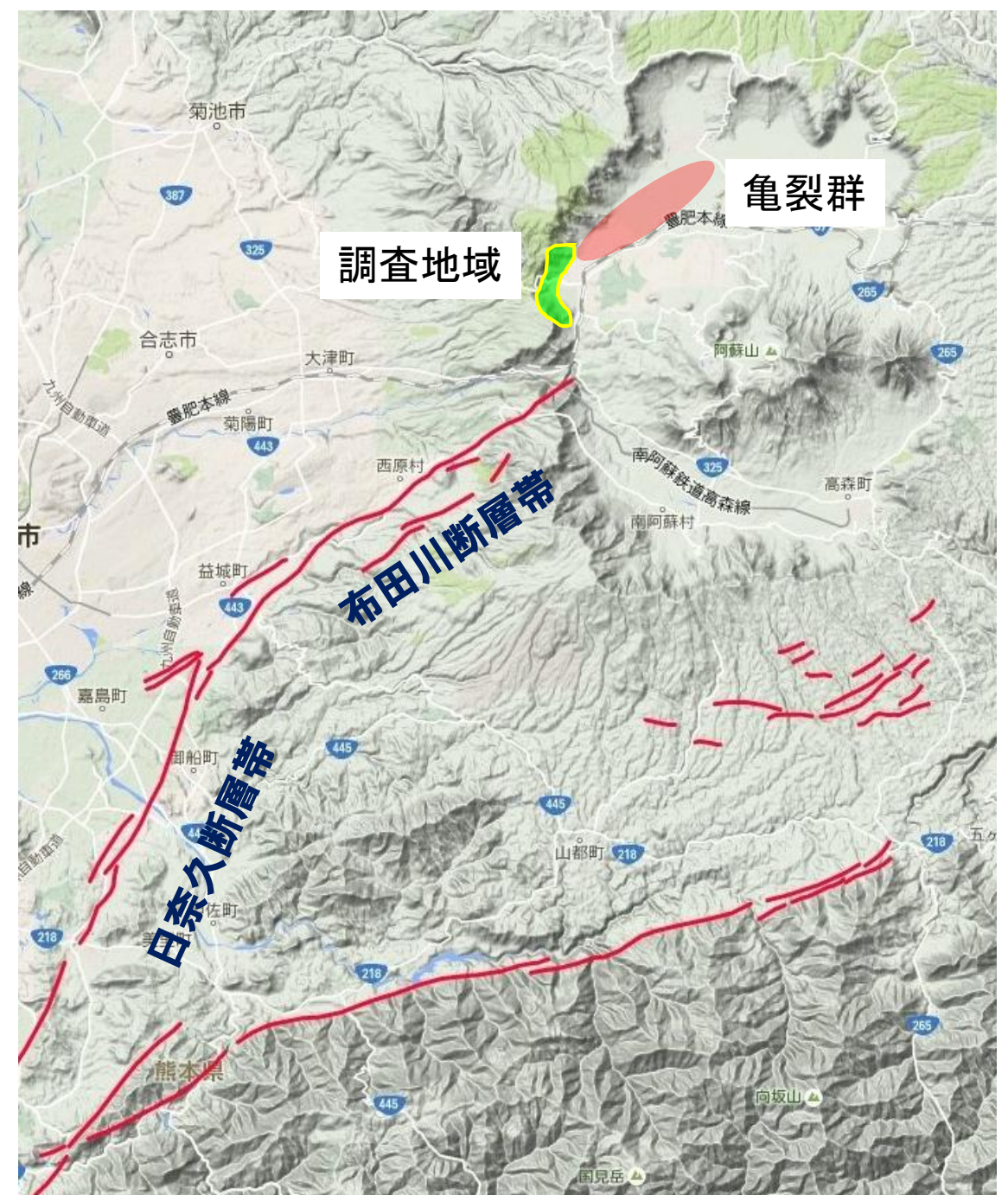
**2: 島根大学総合理工学部**

**調査期間：**

**2016年4月30日～5月2日（3日間）**

**調査目的：**

**阿蘇カルデラ北西部に出現した亀裂群の  
成因解明(地表地震断層か否か)**



# 調査行程

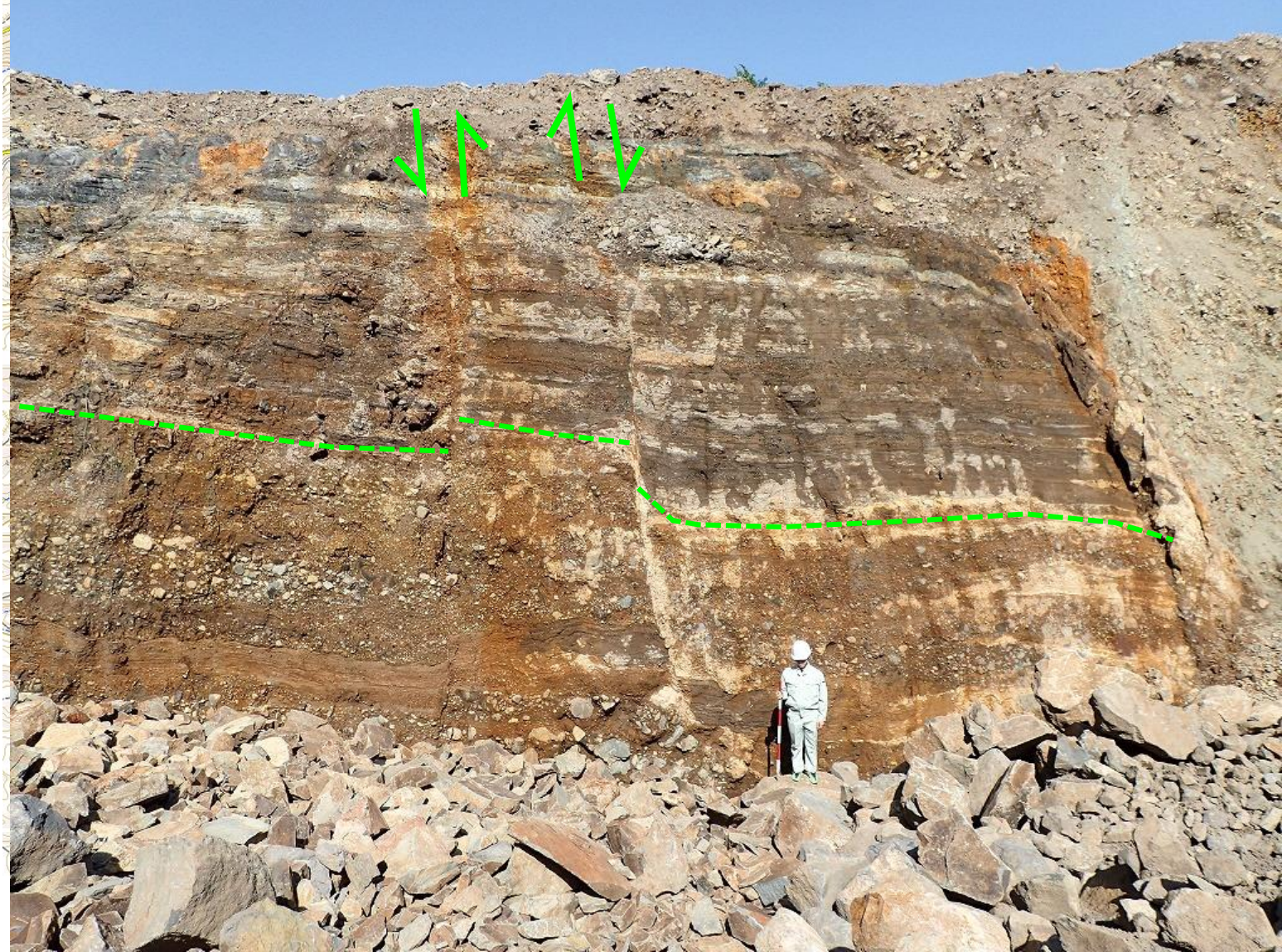
- 4月29日 島根大→  
熊本県長洲町
- 4月30日 長洲町→益城町  
→阿蘇市→小国町
- 5月1日 小国町→竹田市  
→阿蘇市→小国町
- 5月2日 小国町→阿蘇市→  
益城町→下関市
- 5月3日 下関市→島根大

# 調査結果

阿蘇カルデラ壁そばの湖沼性堆積層に入る断層を確認.

渡辺(1984)で報告されている阿蘇カルデラ西側の活断層群の1つと思われる.

今回の地震で動いた痕跡は認められなかった.

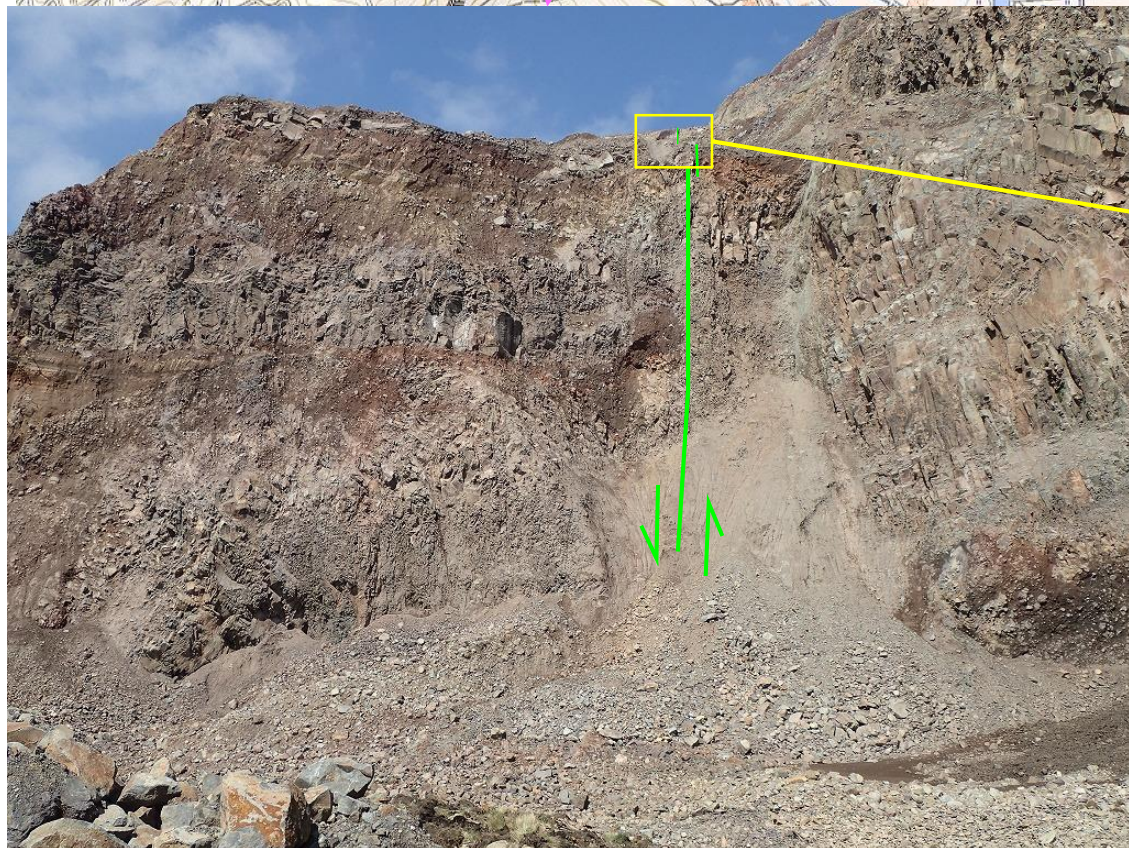


# 調査結果

阿蘇カルデラ壁に発達する断層を確認.

こちらも渡辺(1984)で報告されている阿蘇カルデラ西側の活断層群の1つと思われる.

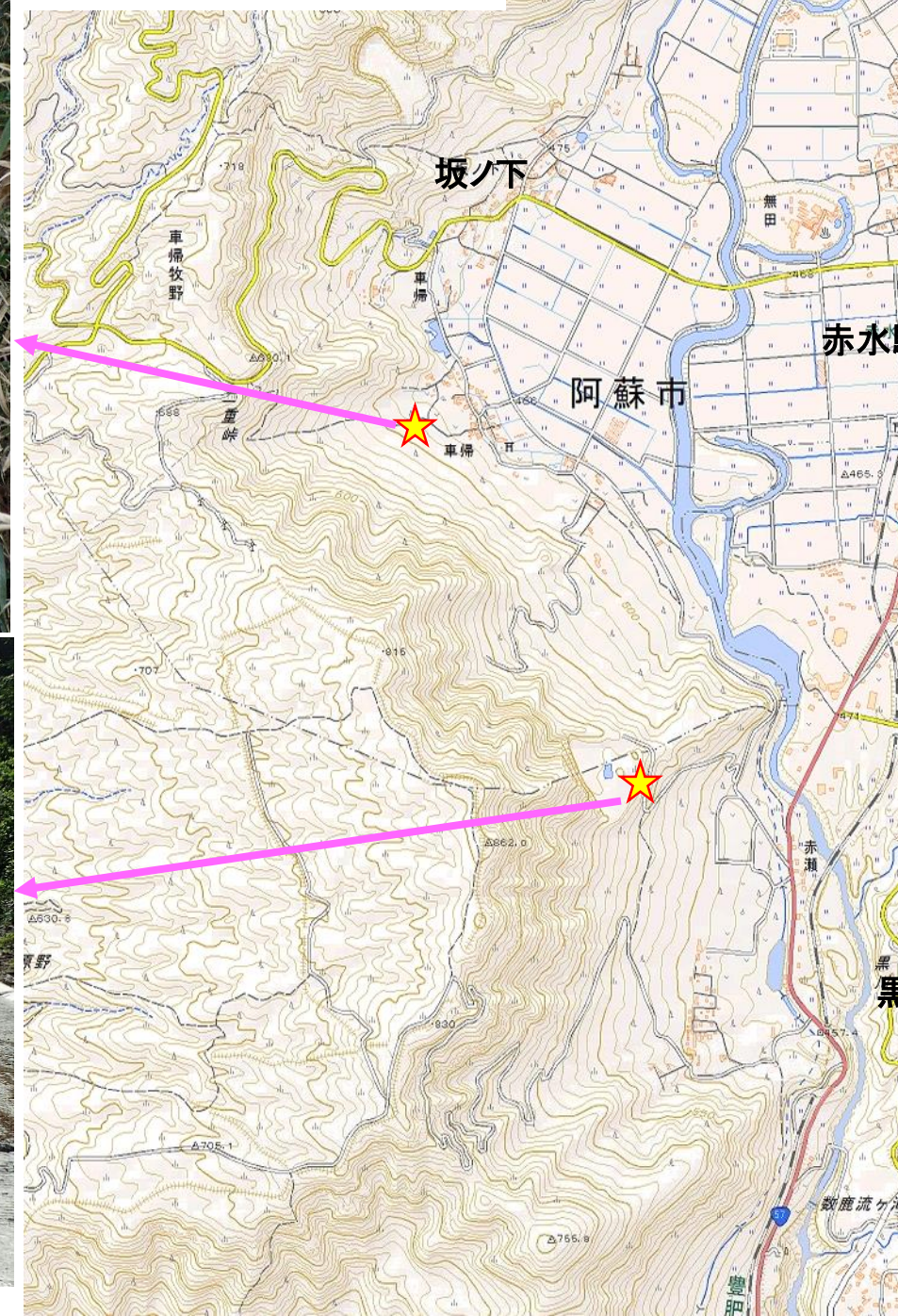
こちらについても今回の地震で動いた痕跡は認められなかった.



他にも西側カルデラ壁沿いに踏査を行い、複数の亀裂を確認したが、重力性のものであると思われる亀裂のみで断層の痕跡は認められなかった  
(次ページスライドも同じ)



地理院地図(電子国土web)に加筆





地理院地図(電子国土web)に加筆



# まとめ

- 渡辺(1984)で報告されている阿蘇カルデラ西側の活断層に該当すると思われる断層の露頭を2箇所確認した。いずれも今回の地震で動いた痕跡は認められなかった。
- 断層露頭以外にも阿蘇カルデラ西部のカルデラ壁沿いの踏査を行い、複数の亀裂を確認したが、いずれも重力性の亀裂と思われ、明瞭な地表地震断層を確認することはできなかった。
- 斜面崩壊により調査できなかった箇所があるため、引き続き調査を行う必要がある。

## 文献

渡辺一徳, 1984, 熊本周辺の活断層群について. 熊本地学会誌. 76, 9-16.